薩摩青雲丸新聞

R8年度2次航
第2号

薩摩青雲丸
指導教官



操業実習終了





枕崎から針路を南へ取り、北緯十五度付近で操業実習が開始されました。
本科生はもちろんのこと、専攻科生も久しぶりの操業実習となり、それぞれの担当業務を精一杯頑張っておりました。揚がってくる大きなマグロやカジキに生徒達は声を出して喜ぶ姿も見受けられました。
全7回の操業実習を終え、生徒達ケガ無くはそれぞれ責任感やチームワーク等が大きく成長したように感じます。
終了後は枕崎港に向けに航行し、操業後の片付けを行いました。
枕崎港に入港後は久しぶりの陸上を満喫しつつ、次の内航実習に向けて各課題や予習に励んでいます。
内航実習が待ちきれない様子です。

投縄作業



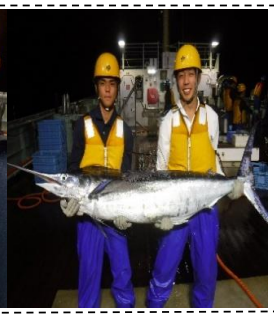


投縄班は八時よりスタンバイし、ブラン出しや餌の準備、最後の清掃まで時間いっぱい従事します。ブランに傷やもつれなどがないか注視しながらの作業は集中力が必須です。
協力しながら教えあう姿が印象的でした。

揚縄作業







十七時より揚縄作業開始です。揚がったブランを綺麗に巻き、また投縄に使用します。釣れた大きなマグロやカジキ類に驚きの声が聞こえました。作業はチームワーク、周りを見て行動することが重要であり、それを学べたのではないかと思います。

冷凍作業





釣り上げた魚は鮮度を保つため冷凍して保存します。冷凍室はマイナス六十度にもなるため防寒着は必須になります。また凍った魚は持ちにくく、足元も滑りやすいため注意が必要な作業になります。

海洋観測





資源調査の一環で海洋観測を実施しています。センサーを水深千メートルまで投下し、各深度における塩分濃度や水温を計測します。他にも海水の水色や透明度も計測し専門の研究機関に報告します。

操業実習を終えて

2年海洋技術コース　藤岡　勇瑠

私はこの操業を通して色々なことを学びました。まず投縄ではブランを決まった位置に置き、そして解くのに苦労しました。
揚縄ではブランの良い結び方や魚体測定など多くの場面で専攻科生に助けてもらいながら行うことができました。
マグロが揚がってきたときには初めて間近で見ると、迫力もあり友達と喜びました。
私は残念ながら酔ってしまい思うように動けないときもありましたが、操業中の7日間という短い期間での体験は自信と知識を身に付けることができ、最終的には忘れることのない、かけがえのない思い出とすることができました。

専攻科一年海洋技術科　鶴川　夏琉

今回の操業は本科生以来となる、専攻科になって初めての操業でした。一次航海では操業がなく、先輩から口頭でしか引継ぎが出来ず、初めてのことも多くてしっかりとできるか不安でした。
操業が始まると乗組員や指導教官の先生方から話を聞きながら教えてもらい理解・行動することができました。
次航海では専攻科生で協力しながら率先して行動できるようにしていきたいです。
操業が終わり、次は沿岸航海が始まります。様々な航路を通航するため、将来のためにしっかりと知識・技術を身に付けたいと思います。